

RAINBOW

No. 106

松江市教育委員会学校教育課 松江市学校図書館支援センター

TEL:55-5073 FAX:55-5251

http://www1.city.matsue.shimane.jp/kyouiku/gakkou/

令和5年の最終月になりました。

今年一年、どんな本を読んだのか振り返ってみるといいですね。



島根県学校図書館活用教育研究事業指定校における授業公開がありました 10月31日(火) 於:松江市立第二中学校

島根県教育委員会は、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に学校図書館の活用を取り入れた実践を研究する研究校を指定し、研究の成果を広く公開することにより、学校図書館活用教育を県内に普及し、もって児童生徒の情報活用能力及び思考力、判断力、表現力の育成を図ることを目的に、学校図書館活用教育研究事業を行っています。

令和5年度の研究指定校となった松江市立第二中学校の公開授業がありましたので、その様子をお伝えします。

授業内容

- ・教科・学年 国語科・第1学年
- ・単元名 「登場人物の魅力を伝え合おう—蓬萊の玉の枝『竹取物語』から—」
- ・本時の目標 『竹取物語』の魅力を伝え合う活動を通して、登場人物の行動の描写を根拠に人物像を捉え、作品の面白さをより深く考える。
- ・本時に関わる情報リテラシー 情報の整理・分析、まとめ

研究協議 (研究の視点・協議の視点)

図書資料を活用して、登場人物の魅力や特徴をつかみ、分かったことを発表するという活動は、『竹取物語』の面白さを知り、古典学習への関心を深めるのに有効な手立てであったか。



グループの代表が選んだ登場人物について発表をする



発表を聞き、登場人物について新たに気づいたことや『竹取物語』の面白さについてグループで共有する



研究協議の様子

島根県教育委員会は研究の普及として、研究校が作成した学習指導案等を取りまとめて公表し、学校図書館活用教育の普及を図るとしています。

今までの研究事業の成果は「島根県立図書館」(子ども読書県しまね)のHPに掲載されていますので、参考にしてください。

https://www.library.pref.shimane.lg.jp/kodomodokushoken/page_id_1043.html



令和5年12月1日現在

学校図書館活用教育研修会を行いました

10月20日(金) 於:鹿島文化ホール

学校図書館活用教育の現状について理解するとともに、学校図書館担当者の役割や授業実践について知り、各校における図書館活用教育の充実に資することを目的とした研修会を行いました。

司書教諭や図書館担当教員、学校司書、計40名が参加し研鑽を積みました。

研修内容

- 講義と演習 1人1台端末時代の教育実践と学校図書館 ～体系表を活かし授業・学校を変える～
- ・「学び方指導體系表」を、各学校の教育課程や学校図書館にかかる計画、各教科学年の諸計画にどのように反映されているのかの検討
 - ・メディアの特性を活かした探究的な学習についての検討

講師 帝京大学教育学部 教授 鎌田 和 宏 氏

GIGAスクール構想により、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境が整いました。

1人1台の端末が配付され活用が進んでいます。このことにより、学校図書館に変化はあったのか、授業に変化はあったのか、子どもに変化はあったのか、学校に変化はあったのかなど、鎌田先生から全国的な状況を伝えていただきました。また、学校図書館のDX化



鎌田先生の講義の様子

について、施設・設備面やサービス面などでの事例についても教えていただき、自校の状況と照らし合わせ可能性を考えることができる話題を提供していただきました。

続けて、松江市が作成している「学び方指導體系表」を学校図書館全体計画や年間指導計画に反映させるために、どのように関連付けていけばよいのかのポイントについてお話いただきました。さらに、子どもたちの情報リテラシーが育っているかの評価が大切ではないかという提案もしていただきました。

演習では、「レポートを書く時に、本、インターネット、新聞をどのように使い分けると良いレポートが書けるのか」を各自が設定したテーマをもとに、使い分け方を考えました。適切に必要な情報を得るためには、各メディアの特性を知ることが重要だということを演習を通して伝えていただきました。

<参加者の感想>

- 「タブレットを使わなきゃ！」という気持ちと、「本で調べさせたい」という気持ちがいつも心の中にありましたが、メディアの特質を考えて、テーマに合わせて使用していきたいと思いました。また子どもはすぐタブレットを使いたがりますが、本や新聞を使うよさを感じる経験をさせて、資料選択に役立てたいと思いました。(司書教諭)
- 子ども達に身につけてほしい情報活用能力の一つとして、情報を吟味する力が大切だということがわかりました。いくつかの情報を読み比べたり、どの情報が正しいかを考えたりする学習も実施してみたいと思いました。本校の教員にも、今日の先生のお話を伝えていきたいと思いました。(司書教諭)
- メディアの特性をふまえて、学習活動に効果的に取り入れていくことが大切であるとあらためて感じました。校内の学校図書館活用教育年間指導計画について、「学び方指導體系表」との関連項目を再度見直し、より適切な方法やタイミング、内容で学習できるようにしていきたいと思います。また校内のICT担当との連携を大切に、年間指導計画の中でも明確に示し、実践にあたるようにしていきたいと思いました。(司書教諭)
- 情報の取り扱いのプロとして、正確な情報の確保が必要だなと感じました。情報担当の教職員とよく話し合い、連携することの大切さはよく思いますので、コミュニケーションを積極的にとっていけるようにしたいです。特にメディアリテラシーに関しては著作権の扱いについて話すようにしています。(学校司書)

学校図書館活用教育に係るブロック別研修を行いました

小中一貫教育の視点から学校図書館活用教育を行うために、中学校区（5～8校）を1ブロックとし、ブロックごとに2種類（①運営研修、②授業研修）の研修をしています。

①運営研修は図書館運営や学習支援、読書支援についての意見交換を、②授業研修は学校図書館を活用した授業研究を行います。両研修共、司書教諭や図書館担当教員、学校司書、関係教職員が参加対象です。

今号では、9月と10月に行った、5ブロックの研修の様子をお伝えします。

①運営研修

B2ブロック 本庄水辺の学園、海と朝日の美保関学園、八束学園

（会場校：本庄中学校）

● 研修内容

- ・本庄中学校の取組紹介
- ・「図書館だより」の内容や活用について
- ・選書の視点や手順について



各校から持ち寄った図書館だより



情報交換の様子

②授業研修

A2ブロック 鹿島ふれあい学園、湖北白鳥学園（会場校：佐太小学校）

● 公開授業

第1学年 国語科 単元「としまっ子は どんどこ」

- ・本時のめあて 「かしまっ子の本」*1の中から読みたい本を見つける *1:鹿島ふれあい学園共通の推薦図書
- ・本時に関わる情報リテラシー L: 発表・交流（読みたい本を発表する）
- ・児童の活動 本の紹介を聞く（リストに記入する） → 読みたい本を見つける → 読みたい本を発表する → 振り返り
- ・協議の視点 「かしまっ子の本」を進んで読もうとする態度を育てるために、本時の活動は効果的であったか。

番号	本のタイトル	チェック
1	としまっ子のほん「うみコース」	
2	としまっ子のほん「うみコース」	
3	としまっ子のほん「うみコース」	
4	としまっ子のほん「うみコース」	
5	としまっ子のほん「うみコース」	
6	としまっ子のほん「うみコース」	
7	としまっ子のほん「うみコース」	
8	としまっ子のほん「うみコース」	
9	としまっ子のほん「うみコース」	
10	としまっ子のほん「うみコース」	
11	としまっ子のほん「うみコース」	
12	としまっ子のほん「うみコース」	
13	としまっ子のほん「うみコース」	
14	としまっ子のほん「うみコース」	
15	としまっ子のほん「うみコース」	
16	としまっ子のほん「うみコース」	
17	としまっ子のほん「うみコース」	
18	としまっ子のほん「うみコース」	

【A2ブロック

佐太小】

子どもたちは本の紹介を聞きながら、「かしまっ子のほん」のリストに読みたい気持ちを記入しました。

【B1ブロック 朝酌小】

自分が調べたい動物のひみつを本の中から見つけてひみつシート（マンダラート）に記入しています。



B1ブロック 嵩の杜学園（会場校：朝酌小学校）

● 公開授業

第2学年 国語科 単元「ひみつをしらべて どうぶつクイズをつくらう」

- ・本時のめあて 動物の本を読み、動物のひみつを見つける
- ・本時に関わる情報リテラシー J: 情報の取り出し（ひみつシートに書く）
- ・児童の活動 本の紹介を聞く → 調べたい動物や本を決める → どうぶつのひみつを見つけてワークシートに書く → 振り返り
- ・協議の視点 学校司書と連携し、児童の興味関心に応えられるような資料を準備したり、調べる際に思考ツール「マンダラート」を活用したりしたことは、学習のねらいにせまる上で有効的であったか。

C1ブロック まつえ天神川学園、まつえ湖南学園（会場校：中央小学校）

● 公開授業

第2学年 国語科 単元「どうぶつのひみつを みんなでさぐる」

- ・本時のめあて 動物のひみつを調べて、「ひみつカード」に詳しく書く
- ・本時に関わる情報リテラシー F：図鑑を使う（知りたいことを本で調べる）
J：情報の取り出し（カードに書く、短い言葉や文で書く）
- ・児童の活動 調べ方や情報の取り出し方を確認する → カードに見つけた情報を書く → 読みつけた情報をペアで伝え合う
→ いちばん伝えたいひみつ（情報）を選ぶ → 振り返り
- ・協議の視点 動物のひみつを探し「ひみつカード」に記録したことは、どうぶつのひみつクイズを作るための情報を得るのに有効であったか。



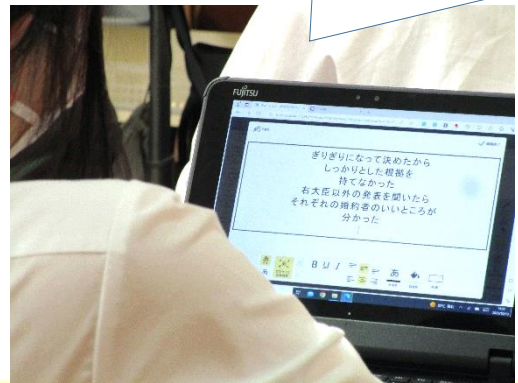
【C1ブロック 中央小】

授業者が図鑑の見方や「ひみつカード」の書き方を説明した後、子どもたちはどうぶつのひみつ調べにとりかかりました。

【D2ブロック 湖東中】

生徒の振り返りより

「(自分が調べた) 右大臣以外の発表を聞いたら、それぞれの婚約者(貴公子)のいいところがわかった。」



D2ブロック 湖東かなび学園、ほっとハート東出雲学園（会場校：湖東中学校）

● 公開授業

第1学年 国語科 単元「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」」

- ・本時のめあて 「5人の貴公子」の中で、かぐや姫におすすめの結婚相手を根拠をもって紹介する
- ・本時に関わる情報リテラシー L：発表・交流（根拠と理由をもって発表する）
- ・生徒の活動 なぜその貴公子を選んだのかの根拠と理由を考える（グループで）
→ 全体へ向けて発表する → 振り返り
- ・協議の視点 「5人の貴公子」について、図書資料で調べたり伝え合う活動をしたりすることは、根拠や理由をとらえるのに有効であったか。

【情報提供】 小学生向け消防団副読本
「地域を守る消防団のしごと」が発行されました

松江市消防本部が『小学生向け消防団副読本「地域を守る消防団のしごと」』を発行し、松江市のHPにて公開しています。

詳細は、松江市HPをご覧ください。



令和5年12月1日現在



https://www.city.matsue.lg.jp/soshikikarasagasu/shobohombu_shobosomuka/anzen_anshin/1/3/16531.html